

中小企業動向 トピックス

中小企業の景況は、引き続き弱い動きはみられるものの、緩やかに回復している

「全国中小企業動向調査（中小企業編）」結果概要
 [2014年10-12月期実績、2015年1-3月期および4-6月期見通し]

当公庫ではお取引先のご協力を得て、2014年12月に全国中小企業動向調査（中小企業編）を実施しました（調査対象12,920社、有効回答企業数5,961社、回答率46.1%）。

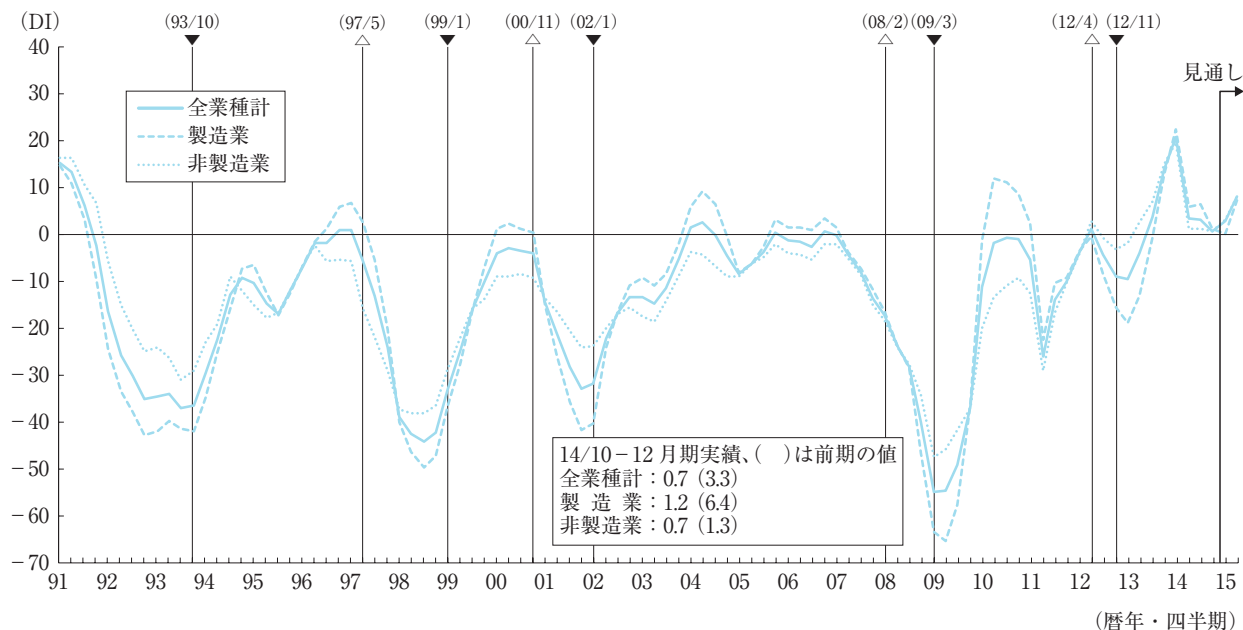
今期の中小企業の業況判断DIは、前期から低下したものの、プラス水準となっています。プラス水準となるのは6期連続です。中小企業の景況は、引き続き弱い動きはみられるものの、緩やかに回復しています。

業況判断DIは低下し、前回見通しを下回るも、プラス水準

今期（2014年10-12月期）の業況判断DI（全業種計）は、前期（2014年7-9月期）から2.6ポイント低下し、0.7となりました。前回調査における10-12月期見通し（5.9）を下回ったものの、引き続きプラス水準となっています（図表-1）。

また来期（2015年1-3月期）は、全業種計で今期から2.2ポイント上昇し2.9に、来々期（2015年4-6月期）は8.1になる見通しです。

図表-1 業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）



(注) ▲は景気の山、▼は景気の谷を示す（以下同じ）。

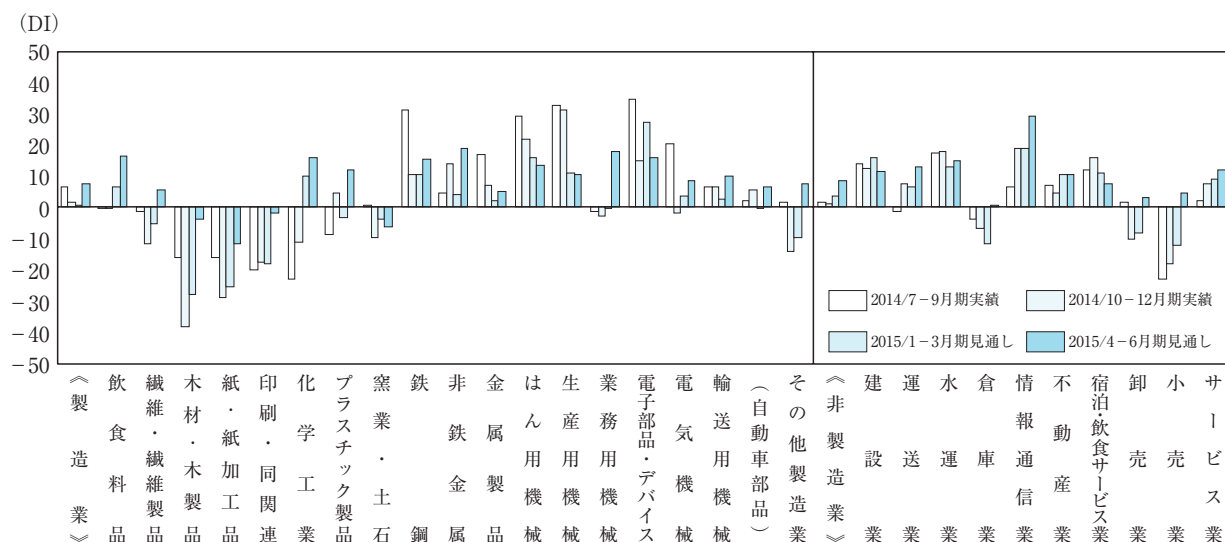
業種により景況感にばらつき

今期の業況判断DIを業種別にみると、製造業では、外需や企業の設備投資を背景に、鉄鋼、はん用機械、生産用機械、電子部品・デバイスなど金属・機械関連の業種の多くでプラス水準となっています。一方、個人消費に関連の深い繊維・繊維製品、木材・木製品、紙・紙加工品などの業種で前期から低下し、マイナス水準となっています（図表-2）。前期と同様、業種によって景況感にばらつきがみられます。

非製造業では、原油安で採算が改善した運送業や水運業などで、DIが上昇した一方、倉庫業、卸売業が前期から低下してマイナス水準となっています。輸入商材を扱う卸売業などで、円安下での仕入高が収益を圧迫しているとの声が多く聞かれました。小売業は上昇したものの、引き続きマイナス水準となっています。

先行きをみると、製造業では、今期マイナス水準の業種においても、上昇を見込む業種が多くなっています。一方、非製造業では、来期は卸売業、小売業でマイナス幅が縮小し、来々期にはすべての業種でプラス水準となる見通しです。

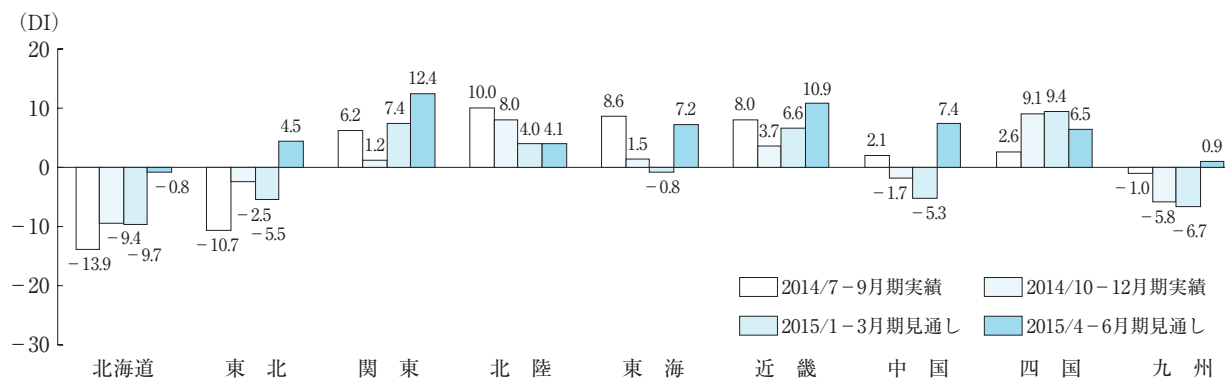
図表-2 業種別業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）



5地域でプラス

業況判断DIを地域別にみると、今期は関東、北陸、東海、近畿、四国の5地域がプラス水準となっています（図表-3）。来期は4地域、来々期は8地域でプラス水準となる見通しです。

図表-3 地域別業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）

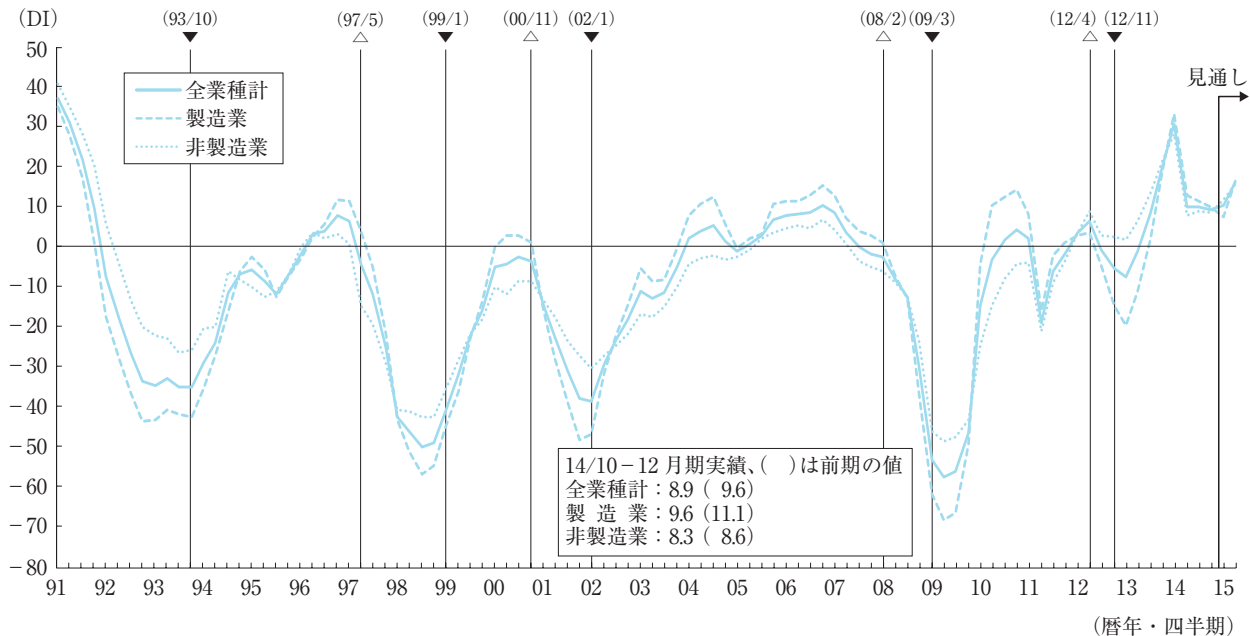


売上DIは前期から低下

今期の売上DI（全業種計）は前期から低下し、8.9となりました（図表－4）。製造業は前期から1.5ポイント低下して9.6となり、非製造業は0.3ポイント低下して8.3となっています。

先行きについてみると、来期は全業種計で10.1に、来々期は15.8になる見通しとなっています。

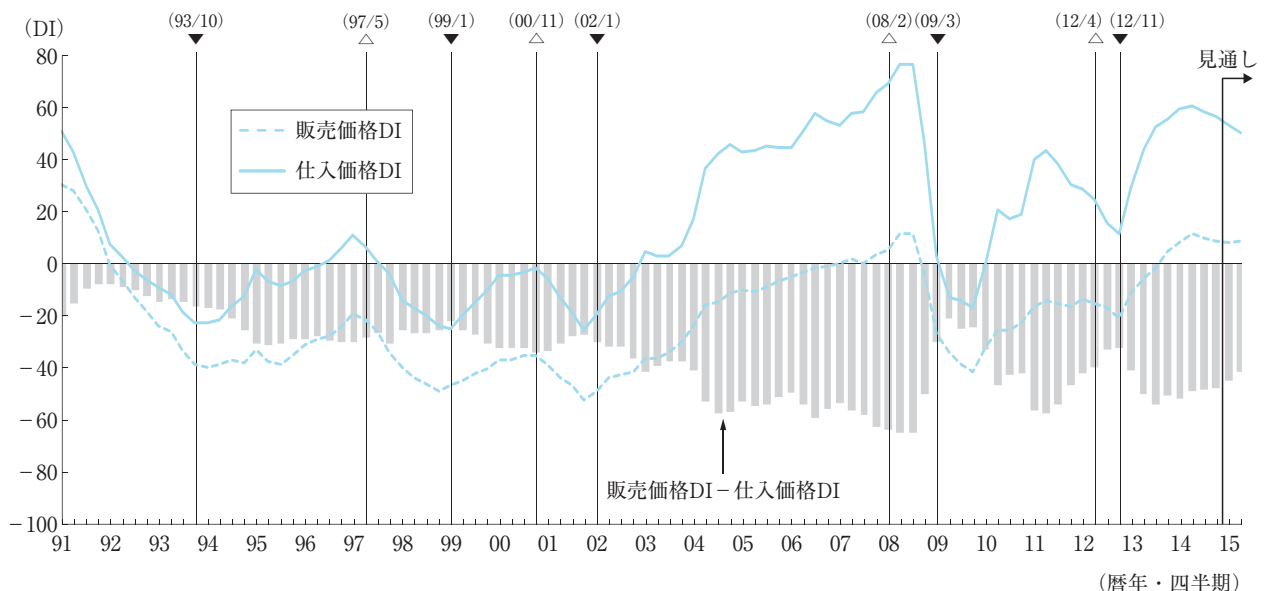
図表－4 売上DIの推移（前年同期比で「増加」－「減少」企業割合、季節調整値）



販売価格DI、仕入価格DIともに2期連続の低下

今期の価格関連のDI（全業種計）についてみると、販売価格DIは8.9と前期から1.2ポイント低下したものの、5期連続のプラス水準となりました（図表－5）。仕入価格DIは1.6ポイント低下し56.8となっています。低下はいずれも2期連続です。来期は、販売価格DI、仕入価格DIともに低下する見通しです。

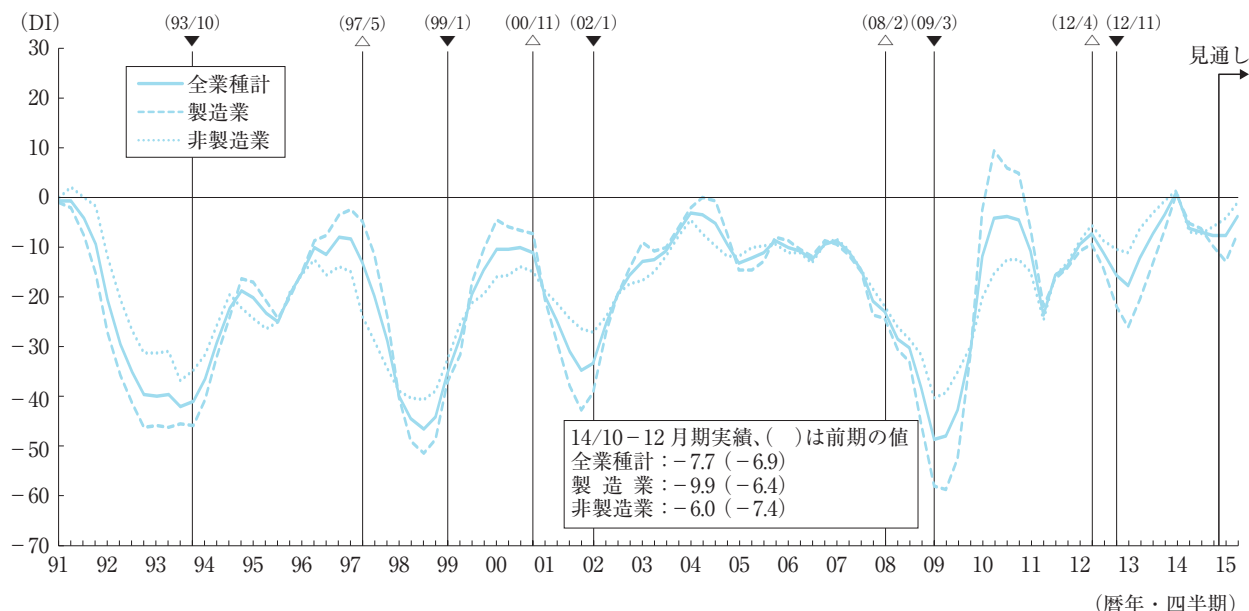
図表－5 販売価格DIと仕入価格DIの推移（いずれも前年同期比で「上昇」－「低下」企業割合、原数値）



純益率 DI は 3 期連続で低下

今期の純益率 DI（全業種計）は前期から 0.8 ポイント低下し -7.7 となりました（図表 - 6）。低下は 3 期連続です。製造業は 3.5 ポイント低下し -9.9 となり、非製造業は 1.4 ポイント上昇し -6.0 となりました。来期は全業種計で横ばいの -7.7 に、来々期は上昇して -3.8 になる見通しです。

図表 - 6 純益率 DI の推移（前年同期比、「増加」 - 「減少」企業割合、季節調整値）

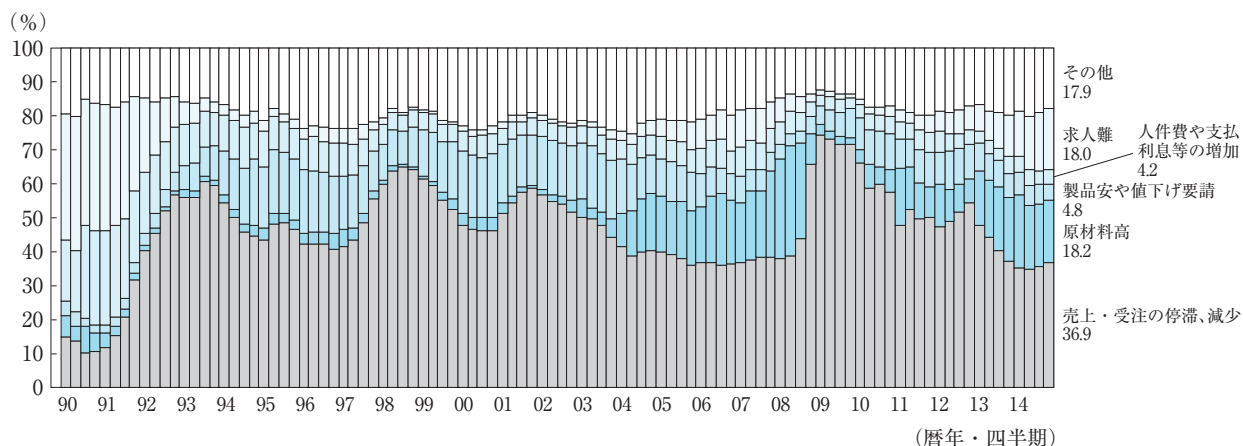


「売上・受注の停滞、減少」が 2 期連続で上昇

当面の経営上の問題点をみると、「売上・受注の停滞、減少」（36.9%）の割合が 2 期連続で上昇しています（図表 - 7）。「原材料高」は前期から 0.2 ポイント低下して 18.2% となり、「求人難」は 0.8 ポイント上昇して 18.0% となっています。

今期は、消費税率引き上げ後の消費の持ち直しの鈍さなどから、業況判断 DI は前回調査の見通しを下回る結果となりましたが、「好転」超を表すプラス水準での推移となっています。先行きも上昇する見通しです。足元では業種により景況感にばらつきがあるなど一部に弱い動きはみられるものの、中小企業の景況は、緩やかな回復基調を保っています。今後、回復が広く波及するか注目です。
(渡辺 綱介)

図表 - 7 当面の経営上の問題点



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ~ホームページ <http://www.jfc.go.jp/> ~